

参加型防災計画の課題と挑戦

－「生存の淵に立つリスク」を見据えて

岡田 憲夫¹

¹ 京都大学防災研究所

E-mail: okada@drs.dpri.kyoto-u.ac.jp

本発表者はこれまでも、持続的な都市・地域のマネジメントのためには、**survivability-critical** という概念が不可欠であることを主張してきた。そしてそのことが生命体システム(Vitae System)モデルという概念モデルの適用と密接な関係があることを論述してきた。今回の東日本大震災は格段の大災害であり、未曾有の被害をもたらし、それが続いている大事件である。計画学の観点から防災計画を学ぶ研究者としては、本震災が投げかける防災計画の課題と求められる挑戦について、現場で起こっている生の現場の事実にできるだけ即して考究することが不可欠であろう。今回は **survivability-critical** な状況が生起することは現実的にあり得るということをふまえ、これを「生存の淵」に立つリスクのガバナンスという観点も含めた参加型防災計画とみなし、その課題と挑戦について議論する。

キーワード：参加型防災計画、Vitae System、survivability-critical、生存の淵に立つリスク、リスクカバナンス